

Accessシステム 超リフォーム術

ポイントを抑えて楽々リフォーム



第8回

Web Browserコントロールによる Webへのアクセス

T'sWare

星野 努 HOSHINO, Tsutomu

<http://homepage1.nifty.com/tsware>

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
Access 2003

Level



Samples

はじめに

Accessには、フォームをデザインするための部品として、テキストボックスやラベル、コマンドボタンなど、たくさんの「コントロール」があります。しかし、Accessで使えるのはそれら標準のコントロールだけではありません。市販のコントロールもありますし、他のWindowsアプリケーションが提供してくれるコントロールもあります。いわゆる「ActiveXコントロール」と呼ばれているものです。

そしてその中には、IE (Internet Explorer) が提供する「Web Browserコントロール」があります。このコントロールを組み込むことによって、Accessのフォーム上にもWebページを表示させることができます。さらに、前号で解説したハイパーリンクの機能ではIEを起動してWebページを表示させるだけでしたが、このコントロールを使うことによって、表示されたWebページのHTML文にまでアクセスすることが

可能となります。Accessが本来持つデータベースとしての機能と併用すれば、Webの情報を取得/収集することができるわけです。

そこで今回は、このWeb Browserコントロールの使い方について説明したいと思います。

Web Browser コントロールとは?

はじめに、Web Browserコントロールとはどのようなものなのか、そしてどのようにして使うのかなど、基本的な内容について説明します。

🏠 コントロールの概観

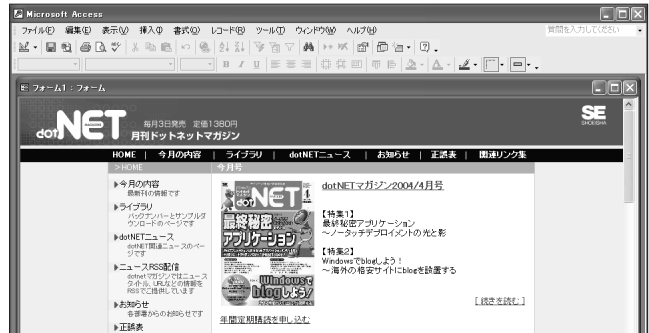
まず図1と図2を見比べてみてください。いずれもdotNETマガジンのサイト (<http://www.shoeisha.com/mag/dotnet/>) を表示していますが、図1はIE、図2はAccessフォーム+Web Browserコントロールを使っています。

IEはひとつの完成されたアプリケー

図1：IEによるWebサイト表示



図2：AccessによるWebサイト表示



ションなので、メニューバーや標準のボタンバー、アドレスバーなども配置されています。これに対して、Web Browserコントロールのほうはあくまでもフォームの一部であり、そのようなインターフェイスまで自動的に追加されるわけではありません。しかし、Webページの内容を表示するペインについてはまったく同じであることがわかるとおもいます。もちろん、表示されたWebページからリンクをたどってゆくこともできますし、右ボタンのクリックによるショートカットメニューも使えます。

このように、Web Browserコントロールを利用すれば、「指定された任意のサイトにアクセスし、そのHTMLを解釈して画面に表示する」というWebブラウザの基本機能をAccessフォームに実装することができます。

🏠 フォームにコントロールを挿入する手順

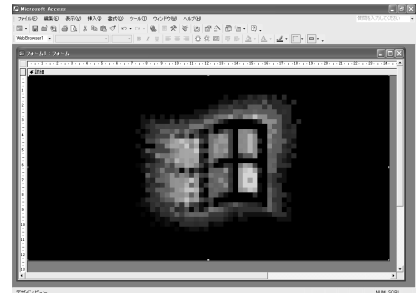
それでは、自分で作ったフォームにWeb Browserコントロールを挿入して、画面デザインを行なう手順について説明します。

Accessのフォームにコントロールを挿入する方法は、次のような手順となります（コントロールを挿入する手順はWeb Browser以外のActiveXコントロールでもすべて同じです）。

- 手順 1** フォームを新規作成します。既存のフォームであれば、そのデザインビューを開きます。
- 手順 2** メニューから [挿入] - [ActiveXコントロール] を選択します。「ActiveXコントロールの挿入」ダイアログが表示されたら、コントロールの一覧から「Microsoft Web Browser」を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
- 手順 3** フォームにWeb Browserコントロールが挿入されたら、あとは一般的なコントロールと同様、位置やサイズを調整します (図3)。

Web Browserコントロールは、実際にWebページを表示することでその役割を果たします。最近では、Webサイトの基本デザインとして画面サイズが大きくなってきているので、このコントロールも比較的大きめのサイズに設定したほうがよいでしょう。

図3：フォームに挿入されたWeb Browserコントロール



🏠 Webページを表示する方法

それでは、図3のフォームを使ってWebページを表示させてみましょう。

Web Browserコントロールには固有のプロパティウィンドウはありません。そして、Accessのプロパティシートで設定できる項目も限られるので、Webページへのアクセスは「モジュールを使う」こととなります。VBAからこのコントロールのメソッドを操作することによって、Webページへのアクセスが実行されます。

具体的にはWeb Browserコントロールの「Navigate」メソッドを使います。このメソッドの第1引数に、IEのアドレスバーに入力するのと同様のURLを文字列として与えることで、そのアドレ